

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年1月30日(2014.1.30)

【公表番号】特表2013-512923(P2013-512923A)

【公表日】平成25年4月18日(2013.4.18)

【年通号数】公開・登録公報2013-018

【出願番号】特願2012-542215(P2012-542215)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	5/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
C 0 7 K	7/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	Z N A
A 6 1 P	3/06	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	5/00	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	3/10	
C 0 7 K	7/00	

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月3日(2013.12.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害からなる群から選択される状態を予防または処置するための組成物であって、有効投与量の、配列番号1～249のいずれか1つの配列を有するグアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストを含む組成物。

【請求項2】

有効用量のcGMP依存性ホスホジエステラーゼの阻害剤と組み合わせて投与されることを特徴とする、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

cGMP依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤が、前記組成物と同時または順次に投与されることを特徴とする、請求項2に記載の組成物。

【請求項 4】

有効用量のフィブレート、脂質改变剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤と組み合わせて投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記フィブレート、脂質改变剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記組成物と同時または順次に投与されることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 6】

有効用量の抗糖尿病剤と組み合わせて投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記抗糖尿病剤が、前記組成物と同時または順次に投与されることを特徴とする、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

有効用量の抗肥満剤と組み合わせて投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記抗肥満剤が、前記組成物と同時または順次に投与されることを特徴とする、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

フィブレート、脂質改变剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤と組み合わせて投与されることを特徴とする、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記フィブレート、脂質改变剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤が、c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤と同時または順次に投与されることを特徴とする、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記フィブレート、脂質改变剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害を処置するための標準用量未満で投与されることを特徴とする、請求項 4 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

さらに別の態様では、本発明は、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に、有効用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼ (c G M P - P D E) の阻害剤、フィブレート、脂質改变剤 (l i p i d a l t e r i n g a g e n t) 、 H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、抗肥満剤を前記患者に投与するステップを提供する。c G M P - P D E 阻害剤として、例えば、スリンダクスルホン (s u l d i n a c s u l f o n e) 、ザブリナスト、およびモタピゾン、バルデナフィル (v a r d e n i f i l) 、およびシルデナフィルが挙げられる。さらに、G C - C アゴニストペチドは、環状ヌクレオチドトランスポーターの阻害剤と組み合わせて使用することができる。

本発明は、例えば以下の項目を提供する。

(項目 1)

脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害からなる群から選択される状態を予防または処置するための方法であって、その必要のある患者に、有効投与

量の、番号 1 ~ 2 4 9 のいずれか 1 つの配列を有するグアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストを投与するステップを含む方法。

(項目 2)

有効用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼの阻害剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

c G M P 依存性ホスホジエステラーゼの前記阻害剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与されるステップをさらに含む、項目 2 に記載の方法。

(項目 4)

有効用量のフィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 5)

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与される、項目 2 に記載の方法。

(項目 6)

有効用量の抗糖尿病剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 7)

前記抗糖尿病剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与されるステップをさらに含む、項目 2 に記載の方法。

(項目 8)

有効用量の抗肥満剤を投与するステップをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 9)

前記抗肥満剤が、前記グアニル酸シクラーゼ受容体アゴニストと同時または順次に投与される、項目 8 に記載の方法。

(項目 10)

フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤を投与するステップをさらに含む、項目 2 のいずれか一項に記載の方法。

(項目 11)

前記フィブレート、脂質改変剤、H M G - C o A レダクターゼ阻害剤、抗糖尿病剤、または抗肥満剤が、c G M P 特異的ホスホジエステラーゼの前記阻害剤と同時または順次に投与される、項目 1 0 に記載の方法。

(項目 12)

前記フィブレート、脂質改変剤、または H M G - C o A レダクターゼ阻害剤が、前記脂質代謝障害、胆道障害、心血管疾患、肥満症、または内分泌障害を処置するための標準用量未満で投与される、項目 4 に記載の方法。